

＜参考＞重症熱性血小板減少症候群について

1 発生状況

平成23年に中国で初めて特定された、SFTS ウイルスに感染することにより引き起こされる病気で、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることで感染します。

ウイルス自体は以前から国内に存在していたと考えられますが、平成25年1月に山口県で国内初の感染事例が確認されました（平成25年3月には感染症法上の四類感染症に指定）。

なお、県内では令和2年6月8日に初めて人のSFTS 症例が確認されています。

また、令和4年9月までに、国内において猫560症例、犬36症例がSFTSと確定診断されています。県内ではこれまでに、犬2症例、猫3症例（このたびの症例を含む）が確定診断されています。

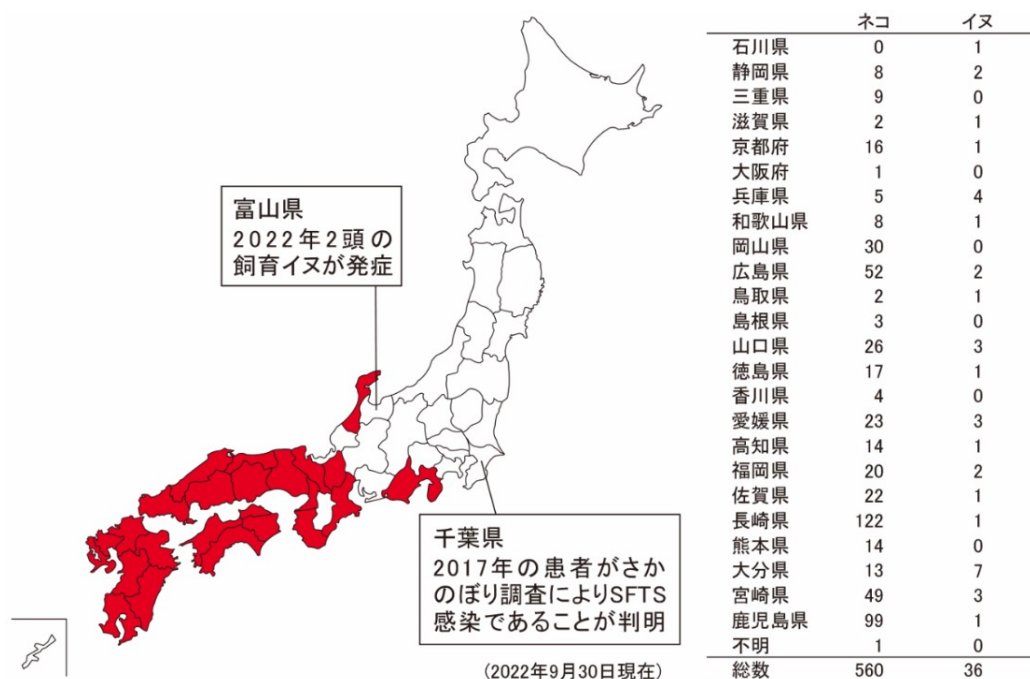


図. 国内のネコおよびイヌにおけるSFTSの発生状況

出典：国立感染症研究所ホームページ

<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/11817-516r08.html>

2 感染経路

多くの場合、ウイルスを保有しているマダニに咬まれることにより感染しますが、近年、稀な事例ではあるものの、発症した犬や猫から人へ感染する事例が報告されています。

3 症状

人の場合、マダニに咬まれてから6日から2週間程度の潜伏期間を経て、主に発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が出現し、時に頭痛、筋肉痛、神経症状（意識障害、けいれん、昏睡）、リンパ節腫脹、呼吸器症状（咳など）、出血症状（紫斑、下血）を起こします。

犬や猫の場合、発熱、消化器症状（食欲不振、嘔吐、下痢等）、血小板減少、白血球減少等の症状が確認されています。

4 治療方法

治療は対症療法しかなく、有効な薬剤やワクチンはありません。